

令和6年度第2回静岡県地域公共交通活性化協議会 議事概要

日 時 令和7年3月14日（金）

14:00～16:00

場 所 県庁西館4階第1会議室
（オンライン併用）

出席者 委員名簿のとおり

1 開会

2 議事

- (1) 令和6年度事業の成果について
- (2) 令和7年度事業計画（案）について
- (3) 令和7年度予算（案）について

3 その他

- (1) 各専門部会の報告について
- (2) 今後のスケジュールについて

4 会議の内容（議事要旨）

【議事1 令和6年度事業の成果について】

事務局より資料1、資料1-1～1-5の説明

（中部運輸局 江川代理）

- 観光地や商業施設との連携（資料1-3）は市町アンケートを実施しているが、その他の運転手の労働環境改善など（資料1-1及び資料1-4）は市町アンケートを実施していないのはどういう判断か。

（事務局）

- 観光地や商業施設との連携は、他県事例を見ると、市町の努力で実現しているところが多い。県内の市町で実施していれば問い合わせしやすいので、同様の取組を行っているかどうか等を聞くために市町アンケートを実施した。

（中部運輸局 江川代理）

- 今年度は他県事例をとりまとめて、来年度はその事例を活用するなど、予定していることはあるのか。

(事務局)

- 今年度の事業計画において、事例収集を行うとしていた項目について、今回、他県事例をとりまとめた。来年度は、後程、事業計画（案）として説明するが、今年度実施した項目以外の項目について他県事例をとりまとめる予定である。

(中部運輸局 江川代理)

- 我々も、参考になる事例を教えてほしいとよく聞かれることがあるのでこういった事例は大変有用なものだと思う。あと1点だけ、「実現可能性」に「△」が多いという感じがする。（「実現可能性」ではなく）「留意点」とか、そういう表現にした方がよいのではないかな。

(座長（学識経験者 松本先生）)

- 「△」を誰がどういうふう判断したのかということもあるので、そういう意味では、「有益性」も「期待される効果」に、「実現可能性」を「実現に向けた留意点」にし、指標ではなくコメント（文言）で記載したらどうか。

(事務局)

- どういった基準で評価をしたんだというところがなかなか難しいところもあるので、文言で記載する形で修正したい。

(会長（望月都市局長）)

- 東伊豆町のノッカル事例について、利用される方が増えてきている一方で、ドライバーの方が集まらなくて、いろいろな負担が増えてしまっているということだった。ドライバーを増やしていくために、具体的にこれからどういった取組をやるとか、何かお考えがあれば、お聞かせ願いたい。

(東伊豆町)

- ドライバーの確保に向けて、基本的には住民の方にドライバーをしていただくような形でお願いをしているので、商工会やその他団体に直接説明に行って、ドライバーになっていただくようお願いしている。

(座長（学識経験者 松本先生）)

- ちなみに、ボランティアドライバーさんを探すときに、結構皆さんやってもいいというが、実際にやろうと思うと責任の重さに耐えかねてなかなか踏み切れない。自分の運転に自信がないとか、安全に運転するにはどうすればいいのかということもわからなかったりとかあるが、それについてはどうか。

(東伊豆町)

- ドライバーになるために講習を受けていただく。まだまだ住民全員周知ができていないが、自分の車を使って、任意保険もご自身の保険を使っていただくような形なので、そういうところがハードルになっていると感じている。

(会長 (望月都市局長))

- 県内でも、住民の方々にドライバーになっていただいている事例もあるので、お互いに情報交換しながら、どんな方策がドライバーが集まりやすいか、あるいは、引き受けやすくなるのか、そんなことを知見として集めることができればと思っている。

(港湾局 吉澤代理)

- 牧之原市の企業シャトルバスの事例について、停留所をどうやって決めたかという点と、費用面はどんな形になってるか、話せる範囲で教えていただきたい。

(牧之原市)

- 停留所は、菊川駅と矢崎ものづくりセンターの敷地内。このバスは会員登録制にし、会員登録した方は専用のカードを発行し、このカードを守衛室で見せると中に入れてもらえるようにする。費用面は、矢崎が一般の交通事業者に委託をしており、こちらで保険がかかっている。市の負担はなく、運賃も無料とさせていただいているので、静岡運輸支局にもその旨相談させていただいた上で、届出は不要とのこと。

(座長 (学識経験者 松本先生))

- ハッピーライドは素晴らしい取組だと思っている。本当に様々な効果があったと思っているが、もちろん子供たちが乗ってくれて、そして将来に向けた更なる利用促進にも繋がっているとか、収益的にも上がっているとか、いろいろあるが、実際交通事業者はどう思っているのか、是非お伺いしたい。

(伊豆箱根バス 齊藤委員)

- 交通事業者は私しか出席してないので代表するのは憚られるが、全国初の試みということでこういう取組で参加をさせていただいて、非常にありがたい。親御さんの行動の機会が減ってしまってお子さんがバスの乗り方がわからなかったり、お子さんも遠足など貸切で利用することはあっても乗合バスに乗る機会が少ないので、バス協会に御協力いただきながら乗り方教室をやってる。そういう点から、こういう機会を通じてバスに乗る機会が創出されたということは非常に大きい。全体の統計の数字で見ると、収入も上がってる。当初は、無料にすると収入が下がるのではないかという懸念もあったが、全体からすると、大人の方にも関心を持っていただいた。次の世代が継続的にこういったものが非常

に身近な存在であるということを確認していただける機会としては、とても大事なことだと感じた。

(県バス協会 堀内委員)

- 今回の取組については、静岡県全体で、全てのバス事業者が参加する初めての取組ということでこれに御尽力をいただいた静岡県地域交通課には感謝申し上げたい。県全体の取組ということになると、どうしてもキャンペーンであるとか、いろいろソフト的な取組にならざるを得ないというところがあるかと思うが、今回はバスの乗務員まで含めて、皆さんが協力して、また市町の皆さんや協賛施設の協力もあり、利用促進としての効果もあったということで非常に良かったとバス協会としては考えている。しかしながら、バスの利用促進というのはもう既に各事業者においても取り組んでいるものであり、プラスアルファで今回の取組をしたということは、関係者の皆様がいろいろと負担が多かったのではないかなと考えている。基本的に来年度も継続するということだが、今回はバス事業者の協賛金という形をとっていたので、将来的にこれが持続的に取り組むのであれば、それぞれの関係者が事業費として予算を計上できるような仕組みづくりであるとか、支援制度とか、そういったものを静岡県でリードしていただければと思う。

(座長 (学識経験者 松本先生))

- 収益としては上がっているが、その他にイベントや周知活動があり、トータルで考えるとプラス・マイナスがわからない。持続可能なイベントにしていくためには、財政構造についても何らかの検討が必要だと思う。県の補助金や支援制度はあるか。

(事務局)

- 継続に向けて何ができるかというのは、これから方法・方策を練っていく必要があろうかと思う。これで終わりではなく、継続できるように、是非皆様に御協力を賜りたい。県としても、できる限り、支援の方策等を考えていきたい。

【議事 2 令和7年度事業計画（案）について】

事務局より資料 2、資料 2-1、資料 2-2 の説明

(御殿場市 鈴木委員)

- 伊豆の国市の公共ライドシェア導入に向けた検討について、御殿場市でも公共ライドシェアの導入について検討している。どの程度の範囲で説明会を行っているのか教えてもらいたい。

(伊豆の国市)

- 昨年の3月に、対象となる4自治会の中で、保護者会や老人クラブ等から代表者を選出し、ワークショップを実施した。今後、住民説明会についても、4自治会を対象に、交通空白地域の住民の皆さんに説明会を実施する予定。

(座長 (学識経験者 松本先生))

- 県で行うセミナー開催、アドバイザー派遣、賀茂地域での調査は、新たに行うということによいか。

(事務局)

- 新たに予算を計上して行う。

【議事3 令和7年度予算(案)について】

事務局より資料3の説明

意見なし

【その他1 各専門部会の報告について】

事務局より参考資料1-1、参考資料1-2の説明

(座長 (学識経験者 松本先生))

- 「河津ザクライド」の利用実績はどうだったのか。もし御存知なら、事務局か河津町から補足いただきたい。

(事務局)

- 「河津ザクライド」は、道路運送法の許可又は登録を要しない運送ということで実施した。実施期間は2月19日から25日の7日間、この間で約50グループ100名の利用実績があった。河津町では、17時にタクシーがなくなるという状況があり、商工会と町議会が主体となって今回の実証運行を行い、公共ライドシェアに移行することが可能かということを見据え、来年度以降の取組に繋げていきたいとのこと。

(河津町)

- 今回、町議会と商工会が協力して実施したので、来年度に向けていろいろと検討させていただきたい。

【その他2 今後のスケジュールについて】

事務局より参考資料2の説明

意見なし

【有識者からのコメント】

(学識経験者 鈴木先生)

- 全体として、計画を策定してから各施策が実行に移されていること、それから、次年度に向けても計画をされていること、これは計画を作って終わりではなくてよかったと思っており、是非これを継続していただけたらと思う。
- ハッピーライドは、単発で終わりということではあまり意味がないので、効果検証しながら、やはり続けていくことが必要だろうと思う。現場からのアンケートを見ると、チラシが大きすぎるという声であったり、実際に携わった方の御意見がいろいろ出るので、来年度は、現場から出てきたような意見については改善ができるように進めていただければと思う。また、小学生に対しては広くアンケートしているようだが、県民のどのくらいがこのイベントを知っていたのかという検証が必要だと思っている。やはり、きちっと知ってもらって、意識をしてもらうことが必要だろうと思うので、その検証はきちんとやっていただきたい。その上で、来年、再来年とやっていく中で、今まで無料デーをやったケースがいくつもあるが、何年何回かやったところを見ると、やっぱりその日限りの単発的なものに終わってるケースが多いのは事実なので、無料がいいのかどうかや、何か他に方法がないのかといったようなことも含め、いろいろ検証していただきたい。取組そのものは非常に評価できることだと思うので、是非、PRとともに継続を考えていただきたい。
- それぞれの地域の状況を見ながら、いろいろな形で進めているとは思いますが、ライドシェアという言葉は、公共ライドシェアという言葉が出てきてしまったために、非常に散漫になってきている。人によってライドシェアというものに対する持っているイメージというのが、かなり拡大していつてしまっているのが現実だと思う。今後進めていくときに、日本版ライドシェアと言われるものと公共ライドシェアと言われるものが、全く違うものが一つの言葉で表現されているということを頭に置きつつ、それを交通整理をしながら、進められるような形でやっていただけるとありがたい。あちこちで、市民との間の混乱も、いろいろ苦勞する部分が多いので、それを留意しながら、是非進めていただきたい。
- 4つの地域での分科会があり、先程の説明の中で、それぞれの地域の施策について各地域で承認をいただいて進めたという説明があったが、それぞれの地域で議論したことが、他の地域との連携や情報共有ができていないのか説明いただきたい。

(事務局)

- 地域分科会間の連携はとれていない。本協議会においても、時間の関係上、地域分科会に関する詳細な説明ができなかったため、次回の会議では、地域分科会の内容も報告できるようにしたい。

(会長（望月都市局長）)

- ライドシェアに関して、我々もいろいろと十分周知をして使い分けをしてきているところだが、なかなかわかりにくい部分がある。県民にわかりやすく説明していきたい。
- ハッピーライドに関して、同じ形がいいのか、違う形がいいのか等、しっかりと検証し、来年度何ができるのか考えたい。
- 県としては、ライドシェアに一番力を入れているが、ライドシェアで全てを解決できるとは思っていない。地域に合ったいろいろな手法がある。地域交通のリ・デザイン、最適化に取り組んでいきたい。関係者と一緒になって、地域公共交通計画の目標の実現に向けて、皆さんの御協力をいただきながら取り組んでいきたい。

(座長（学識経験者 松本先生）)

- 次年度に向けて、是非皆さん一丸となって、静岡県のもとで各事業を進めていただきながら、県民にとってより良い公共交通を築き上げていただきたい。